



TEIKO

Teikyo University of Science
NEWS LETTER

ニュースレター

2018.Vol 31



帝京科学大学



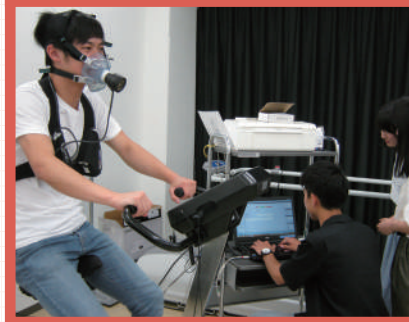
News 1

医療科学部の学生をサポート 医学教育センター

医学教育センターの主な目的は、医療科学部での日頃の専門基礎科目の教育を担当するとともに、学生の臨床活動及び国家試験に必要な医学知識の習得等を支援することです。最近の臨床教育や国家試験では、基礎力と、それを臨床の場で応用できる実践力がますます重視される傾向にあります。

科目の中では特に解剖学と生理学が医学教育の基本です。国家試験に出る問題は、日頃の授業に真面目に出席し予習・復習をしっかり行っていれば解けるいわば正統的な問題であるため、普段の授業を通して基礎力を養うことが重要です。

センターの理念は、「効果的な医学教育法の情報共有とその実践」です。学部とセンターの教員とで効果的な教育方法に関する情報を共有し、それらを実践したあと効果を検証し、さらに有用な方法を考えるという方針です。



News 2

教育人間科学部学校教育学科に 国際英語コースが 新設されます！

近年、我が国でもグローバル化が進むと同時に、海外からの外国人旅行者が増加しています。学校現場でも外国人児童生徒が増加し、児童生徒本人および保護者とのコミュニケーションツールとして、国際共通語である英語を身につけている教員が求められています。また、小学校でも3年生から「外国語活動」が開始され、5年生からは教科として「外国語」が導入され、中学校・高等学校では、「英語の授業は英語で」行うことが基本方針となっています。

このような状況を鑑み、2019年4月に教育人間科学部学校教育学科に、中学校・高等学校教諭一種免許状[外国語(英語)]の取得を目指す課程を置く国際英語コースを新設します。1学年30名定員による少人数教育を行い、MM教室を活用し、CALLシステムを用いた授業や海外との遠隔交流を行います。

また、英語圏での海外語学研修やアジア圏で日本文化を教える海外教育実習などを行います。さらに、地域連携事業として行っている TEIKA English Day in Senju も、国際英語コースの学生を中心として、展開していきます。



News 3

それぞれのキャンパスで、元気に活動しています！

部活・サークル紹介

東京西キャンパス

剣道部

関東学生剣道優勝大会での優勝を目指し、日々の稽古に取り組んでいます。ときおり、千住キャンパスの剣道部と合同練習を行うので交流が深まります。

- 活動場所 東京西キャンパス 剣道場 ●活動曜日 火・土
- 活動時間 (火) 19:00-21:00、(土) 13:00-16:00

動物介在教育研究部 AAE

小学校の授業支援や、地域・学外イベントでの動物とのふれあいを通じて、子どもたちに「いのち」を伝えています。いのちの教育活動に大きなやりがいを感じられるサークルです。

- 活動場所 上野原市の幼稚園、足立区の小学校など
- 活動曜日 週1回(不定期) ●活動時間 9:00-18:00

千住キャンパス

バレーボール部

リーグ戦での昇格を目標に練習に励んでいます。ボランティア活動に参加することも。バレーボール初心者からもっと本格的にやってみたい方まで、部員一同、お待ちしております。

- 活動場所 千住キャンパス 7号館アリーナ
- 活動曜日 月・水 ●活動時間 17:00-20:30

ダンスサークル Zappy

ほとんどが初心者のため、基本的なスキルはもちろんですが、「楽しんで」踊ることが一番の目標です。一緒に表現することの楽しさ、仲間とのつながりを感じましょう。

- 活動場所 千住キャンパス 2号館小アリーナ
- 活動曜日 火・土 ●活動時間 17:00-21:00



News 4

帝京科学大学附属動物病院・接骨院がオープンしました

詳しくは P10 をご覧ください。



地域連携 Regional Cooperation

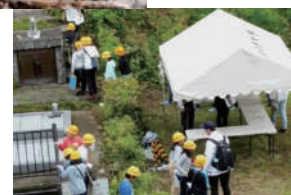


地域連携推進センター 足立区教育委員会連携事業の紹介

大学遠足

この事業は足立区内小学4年生を対象にした今年度で9年目を迎える事業です。2018年度は6・7月に2校実施、9月以降にも2校を予定しています。上野原市にある秋山小学校の校舎を拠点に、周辺の自然豊かな環境を教材にし、都会で暮らす子どもたちを招き、心と体をつかった「自然体験」を味わってもらいます。

当日の天候によって、プログラムが左右されるこちらの活動は、事前準備も念入りに行わなければいけません。7月に実施した際には、予想以上の猛暑になり、急きょ屋外でのプログラムに変更いたしました。子ども達の安全を一番に考え、「自然と人間の関わりを学ぶ」という目的を達成するために教員・学生が一丸となり実施いたしました。帰路につくバスの中から笑顔で手を振る子ども達のその表情が我々の一番のご褒美です。



ふれあい動物教室

本学の学生が足立区内の小学校に出向き、小学2年生を対象に行います。近年では様々な理由から小学校の飼育小屋が減少傾向にあります。普段、動物に触れる機会が少ない子ども達が「命の大切さ」を学ぶ貴重な機会となるこの事業には、毎年多くの小学校から応募があります。

実施に当たっては、本学学生と小学校の担当の先生と当日のスケジュールやアレルギーのある児童への対応など細かく打ち合わせを行います。当日はイヌやスナネズミ、ハムスター、蚕などに触れたり、動物の頭骨などの観察を通じて本学のキャッチコピーである「いのちをまなぶ」教育を実践的に行います。実施後には児童からお礼の手紙が届くなど、本学の学生にもやりがいのある活動になっています。

動物介在教育には自発的にやる気や責任感・他者を思いやる気持ちが生まれる効果があることが報告されており、保護者や教師が言葉で教えようとしてもできないことが可能になります。これからも多くの児童に「命の温もり、大切さ」を伝えていきたいと思います。

夢の体験教室

小学5・6年生を千住キャンパスに招き、教育人間科学部 学校教育学科の1年生が主体となりさまざまな体験教室を行います。

今年度は『帝京科学大学で「アタマ」と「カラダ」を使って楽しく学ぼう!』をテーマに「謎解き図書館リアル脱出ゲーム2018」や「陸上アスリートの世界を知ろう・体験しよう!」など様々なブースを用意し、体験してもらいました。

今年度は猛暑の影響でグラウンドプログラムを急遽屋内開催に変更するなど、準備に追われましたが、無事に開催することができました。教職を目指す学生にとって、実際に児童と接する機会は「教員になる」という目的意識が高まる貴重な機会になりました。





平成30年10月6日、7日に、第28回科大祭を開催いたします。今年度の科大祭のテーマは「The Show Must Go On」。我々実行委員会をはじめとした科大祭を運営する人たちが、来場者の方々を楽しませたいという気持ちを、科大祭が終わる瞬間まで忘れずに走り切ろうという思いが込められています。そして何より来場者の方々に科大祭という Show を最後まで楽しみ続けていただきたいと思いこのテーマに決定いたしました。

科大祭実行委員会は、1年を通じて科大祭の運営準備はもちろんのこと、上野原という地域を活かして地元のお祭りにもボランティアとして積極的に参加しています。

科大祭を運営するにあたり我々実行委員会は、いくつかの部署に分かれてゴールである科大祭成功に向けて動いています。見ていて楽しくなるような装飾、大きなステージを活かしたワクワクするような企画、2日目に打ちあがる迫力のある花火などといった来場者の方々に楽しんでいただける要素を各部署で考え、試行錯誤し、実行して科大祭を作り上げています。

テーマの内容にふさわしい科大祭を今年度も作り上げたいと考えています。我々の作り上げた科大祭をぜひ見に来てください！心よりご来場をお待ちしております。

科大祭実行委員会 委員長

生命環境学部 生命科学科 生命コース 3年 榎 優斗

Event Schedule

第28回 科大祭

開催日 平成30年10月6日(土)・7日(日)

場所 東京西キャンパス



本年度で第8回を迎える桜科祭。今回のテーマは「結(むすび)」です。桜科祭に来て出会った学生や地域の方一人ひとりが繋がって結ばれていくようにという願いを込めました。

私たち桜科祭実行委員会は、部活動・サークルによって4月に開催される新入生歓迎イベント「千桜祭」の委託運営、そしてなにより「桜科祭」を開催するために1年を通し活動しています。

桜科祭実行委員会は11の部署に分かれており、お越しいただいた方に楽しんでもらうための企画を作る部署、ステージを作り運営する部署、学科・部活動・サークルと協力し不安なく参加できる様にお手伝いする部署、協賛していただく企業様との連絡を担当する部署など、それぞれ仕事内容も活動期間も異なります。

仕事や考え方、目標や成功のカタチは異なっても桜科祭をより良い大学祭にしたいという思いは同じです。今年も桜科祭実行委員総勢155名が切磋琢磨しながらより良い大学祭を作りあげようと準備を進めています。

10月27日、28日にぜひ千住キャンパスへお越しください！桜科祭実行委員一同、お待ちしております！

桜科祭実行委員会 委員長

医療科学部 医療福祉学科 3年 吉田 航

Event Schedule

第8回 桜科祭

開催日 平成30年10月27日(土)・28日(日)

場所 千住キャンパス

Department アニマルサイエンス学科

Post 教授

Name 近藤保彦

脳とホルモンから動物行動の不思議を探る

私の研究室では、脳の神経回路がさまざまなホルモンの影響を受けながらどのように動物の社会行動を調節しているかについて研究しています。動物たちは、感覚器官で同種他個体の情報を得て、攻撃すべき相手なのか、交尾相手なのか、あるいは自分の母か仔かを判断し、さらに自身の体内のホルモン状態と照らし合わせながら行動を決定します。行動は、自分が雄であるか雌であるかでも違ってきますし、また、相手の雌雄によってもまったく反応は異なります。これらの現象を実験室の中でさまざまな行動テストを駆使して再現し、時には動物に外科的処置を加えたり投薬したり、またときには遺伝子改変マウスを利用しながら、動物の脳内に備わった巧妙な仕組みを解き明かすことを目標としています。研究では、基本的にラットとマウスという実験動物を使用しますが、最近、野生モグラを捕獲して研究材料とするプロジェクトも始まりました。



Department 自然環境学科

Post 特任助手

Name 本間真一

自然環境学科における実験・実習で大切なこと

私は、故 林 剛 研究室に所属した本学科の前身物質工学科1期生です。本学には2016年4月に着任しました。本学科で開講される実験・実習で、担当教員の補助も行っています。多岐にわたるカリキュラムなので、つい、選り好みしてしまう学生を心配してしまいます。幅広い分野を経験することで、卒業研究に取組む姿勢を構築できることを、根気よく彼らには説明しています。また、実験・実習中の安全確保には、十分な予習と緊張感をもって臨むことが必要です。受講する後輩には、真剣に取り組むことを期待しています。時には厳しく接することもあります。どの学生に対しても良き教員であると同時に、良き先輩であり続けたいと日々、思っています。



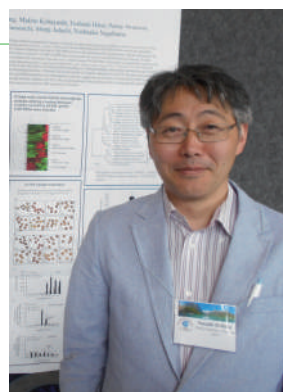
Department 生命科学科

Post 准教授

Name 柴田安司

生命の連続性

60兆個とも言われる細胞でできている私たちの体も、直径わずか百数十マイクロメートルの1つの細胞(受精卵)から始まります。受精卵は、効率よくエネルギーを利用し、どんどん成長を続け、個体は、やがて成熟を迎えます。生命は無から生まれず、絶えず細胞の系譜として連続している。この連続性の中で、「脊椎動物の卵はどのようにして個体へ発生する能力を獲得するのか?」それが大学時代、私が先生から教わった研究テーマでした。ご指導いただいた先生は、昨年、長年の功績により瑞宝中綬章を受賞され、私は、学生とともにこの壮大な研究テーマに取り組んでいます。私もこの研究を更に発展させ、次世代に受け渡していければと考えています。



Department 理学療法学科

Post 講師

Name 渡辺長

学生を主体とした実習授業の展開

理学療法における治療手段には運動療法、マッサージ、物理療法などがあります。本学科には「物理療法学実習」という科目があり、主に電気刺激、温熱、寒冷、牽引、光線といった物理的手段を用いた治療法を学んでいきます。この科目の特徴は、各班で実習内容を創意工夫して課題を定め、具体的に物理療法手技について学んでいくところにあります。また本実習を通じて事前準備、実行、事後考察の一連の流れを経験することにより、理学療法士に求められる素養を培っていきます。他にも理学療法士が患者にアプローチできる手段は住宅環境、補装具、福祉用具など多岐に渡り、最近では介護予防分野でのコミュニティアプローチも着目されています。本学科にはこれらを伝えるスペシャリストが揃っており、学生達が卒業論文や就職に於いて自分の関心のある道を追求できるようサポートしています。





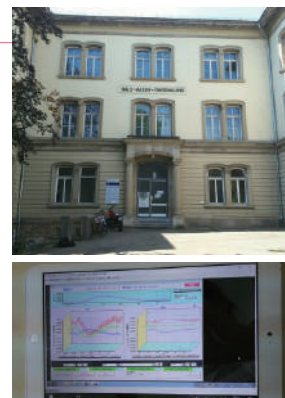
Department 作業療法学科

Post 准教授

Name 船山朋子

生体情報測定技術を活用した意思伝達装置の研究

私が研究している意思伝達装置は、体を動かしてスイッチを操作することが難しい重度運動機能障害の方が使用するコミュニケーション機器です。血流や脈拍等の生体情報を測定し「はい/いいえ」で意思を確認します。理工学や医療をはじめとする様々な専門職の方と共にAIやIoTも取り入れ研究をしています。近年は、この技術をさらに多くの方が活用できるよう一般化に向けた取り組みも始めました。海外ではドイツのチュービンゲン大学で意思伝達装置の研究がされており、6月にチュービンゲン大学でミーティングを行いました。またドイツでは、アシスティブ・テクノロジーを研究しているフランクフルト応用科学大学を訪問しました。



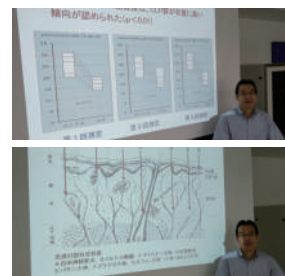
Department 柔道整復学科

Post 准教授

Name 市ヶ谷武生

最近の研究活動 ～慢性腰痛に対する柔整手技療法の効果について～

腰痛は世界中の人々を悩ませています。先進国では80%の人々が人生で1度は経験するとされており、我が国でも男・女の有訴率の第1位と2位を占めています。特に腰痛が3ヶ月以上継続する慢性腰痛は、日常生活や仕事に影響を与えます。私達は附属山梨接骨院の戸部院長と共に、同院を受診した慢性腰痛患者に対して柔道整復の手技療法である「強擦法」を施行して効果を調べました。その結果、筋の緊張が低下して痛みが緩和されただけでなく、不安心理状態までも緩和されることが明らかになりました。成果は、11月に名古屋で開催される「第27回日本柔道整復接骨医学会」で発表する予定です。今後も臨床に還元できる研究を続けていく所存です。



Department 東京理学療法学科

Post 准教授

Name 眞鍋克博

特別支援教育と理学療法

今年7月1日、本学において、JPTA 主催、第1回 学校保健・特別支援教育理学療法部門研究会が開催されました。メインテーマは、「教育的理学療法の在り方とその可能性を求めて」です。従前からの医療としての理学療法から新たに教育領域における理学療法の可能性を模索しようとする先駆的な試みを検討する研究会でした。クラスに2人は存在すると報告される発達障がい児の教育への参加と活動は、教育上の大きな課題となっています。特別な教育的ニーズに応じた適切な教育の実施と、学校と福祉・医療・労働などの関係機関との連携がこれまで以上に求められるようになっていきます。平成31年4月施行予定の新カリキュラム改正において、本学科でもそれを担える人材を養成すべくその対策に追われています。



Department 看護学科

Post 准教授

Name 清野純子

「社会人基礎力」の育成を目指して

近年、社会ではコミュニケーション能力や課題発見力など、人とかかわりの中で仕事に取り組む能力と言われている「社会人基礎力」が重視され、大学生活においても養うことが求められています。この能力は、医療に関わる私達にとって重要であり、必要なものです。そこで今年度は、「社会人基礎力」を養える機会となるよう1年生前期科目の「基礎ゼミ」の中の「助言教員ゼミ」で意識的に取り組んでいます。助言教員ゼミでは、テーマを設定しそれに対してグループで調べ、その成果を発表していますが、この過程の中で自分の意見を主張することや他者の意見を尊重できるなどの社会人基礎力の向上を期待し、担当教員全員で支援しています。



Department 医療福祉学科

Post 講師

Name 三木良子

精神障がい者と学生とのフットサル交流会

精神障がい者は、精神疾患とそれによる生活上の困難さがあるため、スポーツどころか社会の中で生き生きと生活することが制限されてきました。しかし、近年は社会参加が促進され、またスポーツも盛んに取り組まれるようになってきています。このような中、近隣のソーシャルワーカーからご相談を頂き、本学の学生と精神障がい者のフットサル交流会が昨年より定期的に開かれています。また、11月には精神障がい者のフットサル全国大会を本学で開催する予定です。学生も大会企画検討から参加し、大会を盛り上げていくことが期待されます。



Department 東京柔道整復学科

Post 教授

Name 二神弘子

研究者としての第一歩をとるとともに～卒業研究報告～

わたしの研究室では、痛みや不安といったストレスの緩和方法や、マッサージなどの手技療法の効果について検討しています。今年度の卒研生は大月里菜さん(写真)で、精油によるストレスの緩和作用について研究しています。このことは、例えば施術時の患者さんの緊張軽減に役立つことが期待されます。大月さんは実験のために、パソコンで暗算システムを作成しました。暗算によって被験者にストレスを感じてもらうことが目的で、開発途中にはお母様にも試していただいて効果を確認しました。本学科では卒業と同時に国家試験受験があり、勉強と研究の両立は大変なことです。忙しい中でも張り切って研究に取り組む卒研生の姿に、わたしも大いに元気をもらっています。



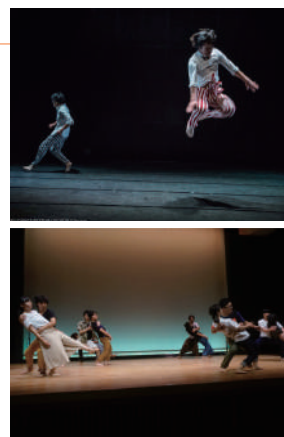
Department こども学科

Post 講師

Name 望月崇博

舞踊芸術と舞踊教育

コンテンポラリーダンス(簡単に言うと身体表現)を始め、13年が経ちます。その間、様々な舞台の振付・演出、出演という実践を通して、舞踊という消え去る身体芸術について学問として探求してきました。4年前に赴任してから、それまでの実践や研究を通じた舞踊の芸術的探求だけでなく、学生に舞踊を如何に教授するかの探求も加わりました。舞踊芸術はそれまでの自身の身体表現を否定するところから始まります。対して舞踊教育はそれまでの自身の表現を肯定するところから始まります。双方に如何に繋がりを持たせるか、そこがポイントです。そこで学生にも『舞台に立つ』『身体をさらけ出す』という経験値を付与しています。



Department 幼児保育学科

Post 助教

Name 渡部晃子

豊かな感性を育むことを目指して

2018年4月に幼児保育学科の教員として着任致しました。専門分野は美術教育学で美術教育の実践的な方法論、特に創造性や思考力を育む教育的な方法について関心をもち、取り組んでいます。子供たちの表現に寄り添いながら、その豊かな感性と創造性を引き出すことができる指導者の養成に努めています。「基礎ゼミ」では今年、生誕百周年を迎えるいわさきちひろの美術館を訪れ、子供と美術が初めて出会うファースト・ミュージアムを体験しました。ちひろが描いた実際の作品や復元されたアトリエ、ちひろが愛した植物が植えられた庭などを鑑賞しました。多様な美的経験を積み重ねることで鋭敏な感性を涵養していったらいいと思っています。



Department 学校教育学科

Post 特任助教

Name 高田由基

アフリカの子供たちに靴を贈ろう!!

学校教育学科の学生サークルSAT (Students Assistant Teacher) では、桜科祭において、環境・社会貢献プロジェクトとして、まだ使えるシューズを回収し、裸足で生活しているアフリカの子供たちに贈る「スマイルアフリカプロジェクト」に取り組む予定です。本学学生や足立区の方々からたくさんのシューズを回収し、アフリカの子供たちに贈る予定です。

また2018年4月に創部した女子駅伝チームの監督をしています。2018年シーズン、個人では全国大会で入賞者を出すことができました。チーム目標である「全日本大学女子駅伝」出場を目指し、選手・スタッフが力を合わせて、頑張っています。応援よろしくお願いします。



Department 医学教育センター

Post 教授

Name 山内禎祐

臨床経験を伝える医学教育センター

医療科学部では、内科学や外科学の講義を担当していますが、臨床医として画像診断やIVRを担当してきました。病院の画像診断部門には、さまざまな症例のCTやMRIなどが送られてきます。これらを読影することにより、多くの貴重な症例を経験できます。自分の症例から学んだことには真実です。経験は自信につながります。IVRは聞き慣れない言葉ですが、診断の手技を応用して治療をすることです。例えば血管造影の技術を応用して出血の治療を行うことができます。あるいは閉塞した血管を再開通させることもできます。救命救急センターに運ばれてきた患者さんを何人も治療してきました。大学の講義でも、臨床医としての経験を話しています。



Department 教職センター

Post 講師

Name 福田八重

私の教育と研究－地域に生きる先生方とともに

現在、「いじめ問題」を研究し、いじめの予防や解決、加えて、いじめを受けて心的外傷を負った子どものケアについて考えています。私は、教育学、中でも、生徒指導・生活指導の研究者です。ゆえに、いじめの予防・解決を含め、子どもの成長と発達を保障できる学級・学年・学校のあり方を考えるために、地元足立区や全国各地域の先生方の実践を、ご本人と分析させていただき、ともに考察し、実践を支える仕事をしています。

学生の教育では、教員養成を担っています。教師は、一人一人の子どもを大切に、成長させていく仕事です。豊かな子ども観・教師観・人間観が要求されます。授業では、地域の先生方に、ゲスト講師に来ていただく、遠方の先生は学生の疑問にお手紙で返事をいただくなど、多くの先生方に支えられながら、学生の子どもの観・教師観・人間観を育てています。



Department 総合教育センター

Post 講師

Name 石田良仁

基礎教育を通して学習の習慣を身に付ける

私は両キャンパスでの化学の基礎科目を担当しており、基本的な内容を確実に身に付けることを意識して授業を行っています。一回の授業と自主学習だけで受講者全員が内容を理解できる便利な魔法は無いので、分からないことがある学生には個別に指導も行っています。今年度の前期では延べ50人程度が質問に来ました。このような学生と接していると大学以前の内容での取りこぼしがあったり、学習の習慣が無かったりすることが分かります。彼らに対しては化学の基礎知識だけでなく、今後の大学での学修が円滑にできるよう、自分に合った学習の習慣を身に付ける手助けも行っています。



TOPICS 1

帝京科学大学附属動物病院

「安心で身近な動物病院」を目指して、帝京科学大学附属動物病院を開院致しました。動物看護系大学ならではの強みを生かした診療科目とウェルネス・ケアで、ペットと飼い主様のQOL（生活の質）の向上と「健康寿命を延ばす」ことを使命として、地域社会に貢献します。獣医師と動物看護系スタッフが協働することで、「動物看護と福祉の視点」から、ペットとの生活をサポートしたいと考えています。本学は長年にわたり、動物看護と福祉における様々な分野の教育に従事してまいりました。その経験を活かした教育の実践も、本院設立の目的です。教育病院として幅広い知識と確かな技術を兼ね備えた、チーム獣医療の一翼を担う動物看護師を養成してまいります。

本学が所属している全国動物保健看護系大学協会は動物看護師の公的資格化を目標に活動していますが、その実現のためには臨床現場での実践教育の強化が求められています。本院は臨床実習のための施設として、受付、診察室、手術室、検査室などは学生が見学や看護補助を行うために、ゆとりのあるスペースを確保しています。加えて、動物理学療法室、行動カウンセリングルーム、飼育・栄養相談室など、本学の特色ある動物看護教育を実践する施設も充実しています。

帝京科学大学附属動物病院 院長 小林豊和



TOPICS 2

千住大橋接骨院

この度、平成30年3月26日から帝京科学大学附属臨床実習施設として、京成本線千住大橋駅に「帝京科学大学千住大橋接骨院」を開院させていただき運びとなりました。最新技術・医療機器・専門知識を活かし「安心で身近な接骨院」を目指して精進してまいります。開院当初より、多くの患者様にきていただき、特に外傷患者様に多くご来院いただいております。当院には超音波画像診断装置があり、骨折が疑われるときには提携病院へのご紹介も行っております。お体の不調でお困りの方、ぜひとも一度ご相談ください。これからも地域の方々をはじめ、ご来院いただいた患者様に少しでもお役に立てるように精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

帝京科学大学 千住大橋接骨院 院長 黒坂竜乃介



TOPICS 3

八王子接骨院

この度、平成30年4月に八王子市に「帝京科学大学八王子接骨院」を開院いたしました。本院は、最新の画像診断装置などを用い、確実な評価を行うことで、手技療法をはじめストレッチングやトレーニング、最新の医療機器を組み合わせた「オーダーメイドの治療」を提供させていただいております。一日でも早くケガを治すには何をすべきかをスタッフ一同協議することなく追求し、皆様がお悩みの痛みに立ち向かいます。また、スタッフ全員がスポーツ経験者である事、医療科学部に教鞭を取る教員が兼任している事を活かし、最新のメソッドを用いた、各種目に応じたパフォーマンスアップ・トレーニングもご提案させていただいております。日常生活やスポーツ中に生じた偶発的なケガなど、皆様のお悩みの痛みのことについて、些細なことでも遠慮なくご相談ください。

帝京科学大学 八王子接骨院 院長 吉田真琴



TOPICS 4

千住図書館

帝京科学大学附属図書館は、本学の「知」の拠点として、研究・学習を支援する役割を担っています。千住キャンパスの7号館3階にある千住図書館は、入口の左側が静かに集中して研究・学習ができる「サイレントゾーン」となっており、書架、閲覧席、グループ学習室、PCがあります。一方、右側はコミュニケーションを前提とした「アクティブゾーン」となっており、グループで話し合いながら学習できるラーニングcommonsやプレゼンテーションコーナー、AVコーナーがあります。

蔵書は、学部・学科の専門図書は当然のこと、一般教養図書の充実にも努めています。近年広く普及している電子ジャーナルや電子書籍、データベースも利用者のニーズを捉えながら整備・提供しています。また、授業期の平日は午後9時30分まで、土曜は午後6時まで開館していますので、授業終了後も落ち着いて勉強や調べものができます。



4年間の大学生活で得たもの

古河市立釈迦小学校 小学校教員 佐久間 歩美 (2015年度 こども学部・児童教育学科〈当時〉卒業)
現・教育人間学部 学校教育学科

現在は、茨城県の古河市立釈迦小学校で勤務しています。全校児童109名という小さな学校で、自然も多いところです。先輩の先生方に様々なことを教えてもらいながら、時には子どもたちにも助けられながら若手教員として教壇に立っています。教員になって3年目の今は6年生を担当し、つらいことや大変なこともたくさんあります。しかしその倍、楽しいことやうれしいことを子どもたちからもらっています。毎日新しい発見があり、とてもやり甲斐のある仕事です。

大学時代は、ピアノの弾き歌いや各教科での模擬授業、理科実験の演習など、実践的な授業が多くとても勉強になりました。友人達と、空き時間を使ってピアノ練習をしたり、模擬授業の計画を話し合ったりしたことも楽しい思い出です。また、教員採用試験を受けるに当たって、論文の指導や集団面接、体育の実技試験などの指導を教職センターでいただきました。先生方には何回も論文の添削をしていただいたり面談をしていただいたりと大変お世話になりました。大学で過ごした時間は今の自分を支えている大切な思い出であり、教員としての自信にもつながっています。

大学での4年間は長いようであるという間です。学生のみなさんには、友人や先生方など、人との関わりを大切に過ごしてほしいと思います。また、その中で自分の目標や夢に向かってあきらめずに進んでください。そして、悔いのない大学生活を送ってください。私もみなさんの先輩として恥じないよう、これからも教員として真剣に子どもたちと向き合っていきたいと思います。



キャリア支援センター

Career Support Center

一人ひとりの適性や将来を見据えた懇切丁寧な面談を繰り返し、
学生にとってのベストを見つけます。

キャリア支援センターは、就職支援だけでなく、学生の適性や将来まで見据えたキャリア教育を行うことを目的としています。今、社会では新入社員の約3割が3年以内に退職すると言われていています。その原因となる企業とのミスマッチを防ぐためにも、キャリア教育は必要です。そのために正課の授業として1年次から導入しています。

また、各キャンパスに合計6名配置しているキャリアカウンセラーによって、3年次の春に全員面談を行います。早期から就職活動に向けて希望を聞き取り、適性とのすり合わせをするため、面談は継続的に行います。さらに、日常的に学生と関わる教員と連携しながら、就職活動に関する学生の動向を把握し、一人ひとりの学生にとってのベストを一緒に見つけていきます。

学生の入学・卒業

卒業式・学位授与式

- 平成 30 年 3 月 17 日
- 於 日本武道館
- 学部生 970 名卒業、
修士課程 13 名修了、博士課程 1 名修了

入学式

- 平成 30 年 4 月 4 日
- 於 日本武道館
- 学部生 1241 名入学、
修士課程 10 名入学、博士課程 1 名入学



退任・新任教員紹介

平成29年度（退任）

有賀 小百合	特任助手	アニマルサイエンス学科	富岡 由美	教授	看護学科
跡見 友章	准教授	理学療法学科	定村 美紀子	准教授	看護学科
高田 治実	教授	東京理学療法学科	城野 美幸	准教授	看護学科
高橋 達徳	特任助教	東京柔道整復学科	堀之内 若名	准教授	看護学科
奥宮 暁子	教授	看護学科	高岡 素子	講師	看護学科
武政 奈保子	教授	看護学科	平野 英史	講師	幼児保育学科

平成30年度（着任）

平成30年5月1日現在

上村 暁子	講師	アニマルサイエンス学科	新野 由子	教授	看護学科
戸澤 あきつ	特任助教	アニマルサイエンス学科	宮城 純子	教授	看護学科
橋本 伸也	教授	東京理学療法学科	大釜 信政	准教授	看護学科
村上 憲治	教授	東京理学療法学科	大森 美保	講師	看護学科
和田 良広	准教授	東京理学療法学科	梅崎 かおり	講師	看護学科
渡辺 長	講師	理学療法学科	小宮山 恵美	講師	看護学科
青柳 達也	特任助教	理学療法学科	渡部 晃子	助教	幼児保育学科
吉田 真琴	特任助教	柔道整復学科	高田 由基	特任助教	学校教育学科
中西 真	助教	医療福祉学科	小出 哲也	准教授	総合教育センター
藤江 慎二	講師	医療福祉学科	久保田 俊一郎	特任教授	医学教育センター

TEIKA 情報

ホームページをはじめ
本学の情報は右記 SNS か
らも見ることができます。



本学 HP サイト



Instagram



Twitter



Facebook



Youtube

編集後記

大学教育の質的保証・向上が求められている中、本学も真に社会に貢献し得る人材の育成に努めています。本号の「教員の活動報告」では、日頃どのように学生と関わりをもつて教育、研究に臨まれているのかに視点をあてて執筆して頂きました。高い志を持った若人が集い、互いに多くを学び、それぞれの道でプロフェッショナルな人材となることを願っています。（ニューズレター部会長 渡邊浩一郎）

発行人：帝京科学大学 学長 沖永 莊八

〒120-0045 東京都足立区千住桜木 2-2-1 TEL：03-6910-1010（代表）

URL：http://www.ntu.ac.jp/ E-mail：koho@ntu.ac.jp ※ご意見、ご要望をお寄せください。

